

## 高等学校グランドデザイン会議第5回第1専門委員会概要

日時：平成19年2月6日（火）

14：30～16：30

場所：教育庁会議室

### <出席者>

豊川委員長 前田副委員長 荒瀬委員 石山委員 佐井委員 櫻田委員 佐々木委員  
古館委員 牧野委員

### 開会

#### 司会

それでは、ただ今から「高等学校グランドデザイン会議第5回第1専門委員会」を開会いたします。まず、事務局から議事録等について報告させていただきます。

【事務局が、配付資料に基づき説明。】

#### 司会

それではここからは、豊川委員長に議事をお願いします。

### 協議事項

#### 豊川委員長

第5回第1専門委員会を開催します。次第が手元にあると思いますが、協議事項が5項目あり、次に蛇口議長案に対する意見となっています。今日は最初に5つの協議事項について意見をいただきたいと思います。統廃合の基準等の整理という事ですが、最初の部分は今まで十分話し合ってきましたので速やかに進むと思います。校舎制となる学校の方向性という事ですが、今までも話が出ていましたが1つの基準案を作らなくてははいけませんので意見をお願いします。

#### 前田副委員長

前回の会議では、廃止を検討する条件として2年だったり3年だったりという事でしたが、3年は長いと思います。この前の話の中で、2年という事も考えられるのではないかと思いますので、2年という意見を出させていただきました。それに対しては、様々な意見が資料の中にありましたので、少し議論ができればいいと思います。

豊川委員長

この資料について説明する必要はありますか。色々な意見がありますが、かなり話し合いましたので結論を出してもいいと思います。

A 委員

2年とか3年とか、募集定員の50%とか60%という話がありますが、志願者がいいのか、あるいは最終的に入った入学者がいいのかと考えた時に、志願者、進路志望状況の第1次調査の結果で決定できるものでしょうか。やはり、誤解を受けないためには、最終的に何人が入ったのかという形が、一番責任が分かりやすくいいと思います。

豊川委員長

定員の充足度、という事ですか。

A 委員

進路志望状況の第1次調査と言っても、やはり最終的に何人が入ったのかによるのではないのでしょうか。

豊川委員長

ここは基本となる非常に大事な所です。

B 委員

数字はあまり使わない方がいいと思います。例えば、志願者なのか定員数なのかにもよりますが、「数年間の何々の動向を捉えた時に、教育的効果が期待できない何割程度」というようにしないと、小さい町村で学校を存続するために隔年で生徒を入れると残る格好になってしまいます。実際に青森県でも見た事がありますので、何年間という事がかえって再編の足枷になるのではないかという気がします。

豊川委員長

前回の意見では、基準を決めた方がいいという事でしたが。

B 委員

全く出さないのではなく、できるだけ数字を少なくするという事です。

C 委員

納得できるように表現できればいいのですが、年数を入れないで何と表現するかが問題です。

豊川委員長

クリアする数字を低く抑えて、はっきりと出したらいいのではないのでしょうか。それ以外の方法は無いと思います。

B 委員

「数年間の志望者、入学者の動向を捉え、定員の8割の維持が難しいと判断された時」という感じであれば、一時は8割になっても、やはり見込みが無いと判断する事もできるのではないのでしょうか。

C 委員

数年間ですか。

豊川委員長

数年間というのは3～4年ですか。4～5年ですか。非常にバラ色の提案という気がしますが、それでいいのでしょうか。

D 委員

数年間という表現では、やはり長くなるでしょう。

豊川委員長

5年とかになってしまいますよね。

A 委員

この10年間で、校舎化せざるをえない学校は出てくると思います。校舎化になるという事は、他の学校が近くに無かったり、通学が難しいという条件が必ずある訳ですから、地域によって3年だったり5年だったりという事ではなく、全県下的に年数は決めておいた方がいいと思います。住民の反対が多くてこの学校の年数が伸びたといったように、地域によって年数が違うのはあまり良くないので、今のうちに決めておいた方が目安としてはやりやすいのではないのでしょうか。大体ですが、2年間で募集定員の半分の入学者が見込めない場合、という形でいいのではと思っています。

E 委員

まず、校舎化になってしまった学校は、将来的に生徒数が回復する事はまずありえないという事を踏まえた方がいいのではないのでしょうか。私は校舎化になった学校はやはり統廃合を基本線とする立場なのですが、これまでの話し合いの中では、交通手段が不便ですとか、地域の実情という事で、必ず例外としてという話が付きます。そうすると、校舎化になった学校のほとんどが例外的な扱いを受けるような気がします。それでは、校舎化の

学校は基本的には統廃合を目指すのですが、ほとんどの学校が特別扱いされる学校になっているという、相反する話に進んでいると思います。そこで、統廃合する時にどういう基準を設定すればいいのかという事を踏まえて基準を設定しなくてははいけません。数字をいくつか出していますが、数字で厳しくしてしまうのは現実的ではない、という気がします。

#### D 委員

やはり基準が無ければ、同じ設定でありながら反対運動が大きくなった地域の学校は存続し、運動が盛り上がらなかった地域の学校は無くなる、という場合が出てくるのではないのでしょうか。その時に生徒への被害の程度の差が出てくるので、一定の基準が必要なのではないかと思います。先程の話がどこの学校かも予想はつくのですが、町をあげてその学校に送り出せ、という形を取った学校が3つ程は記憶にあります。その学校も歯止めがかからなくなったら結局は生徒が外に出てしまいました。そういうケースがあるので、冷たい意見ですが逆に2年なら2年とした方がいいと思います。

意見としては、志望者数と入学者数をミックスした考え方が必要ではないかと思いましたが、地元という定義がどこをもって地元と言うのかも悩みました。時間が無くてそのまま書いてしまいましたが、ミックスした考え方があってもいいのか、すっきりと志望者で考えたらいいのか、自分自身でも迷っています。

#### C 委員

3年間で50%という意見でしたが、これではなかなか無くならないようですので、やはり2年間で60%の方がいいと思いました。昨日県議選の候補者のマニフェストがポストに入っていたのですが、観光科に力を入れて行きますと書いていました。そういう事が県議選で言われているのでは、これは大変だと思いました。

#### F 委員

前期後期の入試になり、前期の結果でやむをえず志望校を変えてしまう場合が出てきますので、充足率で人気が計れるのかなと思います。ですから、進路志望状況の第1次調査で見た方がいいと思います。

#### 豊川委員長

最後は定員でしょう。

#### 前田副委員長

進路志望状況の第1次調査はかなり当てになりません。

#### D 委員

進路志望状況の第1次調査は人気投票ですよね。ですから、それが生徒と保護者の本当

の希望だと受け止められています。それが0.5倍とかになると、この学校は人気が無いのだと思いますが、最後は調整がかかりますので1.何倍とかになる訳です。ですから進路志望状況の第1次調査が本当の気持ちです。

前田副委員長

進路志望状況は第2次調査もあるので、最初は自分の力はともかく行きたい学校に出すというのが中学生の心情ですから、当てにならないと思います。

D委員

ですから、本当の気持ちが出ているのが進路志望状況の第1次調査です。だからこそ、学校が地域住民や近隣から本当に必要とされている学校かどうかの目安になるのではないかと、というのが私の考えです。

E委員

第2志望もやはり大事ですし、中学生としては第2志望もかなり真剣に考えていると思います。その結果、こちらの学校でもいいと考えて後期の学校を受験する子もいると思います。

D委員

募集割合は、大体前期と後期で9：1ですよ。

E委員

確かに人気としては前期の方に出しますが、せっかく試験の機会が2回も与えられたのですから、後期の方は1割程度の枠ですが、それなりに考えている子もいると思います。ですから、第1志望だけではなくて、最終的に入学した子の数、あるいは志望者と入学者をトータルで見た方がいいと思います。

F委員

全部が正解なのではないですか。だから決めかねているのでしょう。

D委員

県立高校の定員は中学生の在籍数を見ながら決めて行くケースが多いので、どうしても満遍なく調整をかけてしまうとどこの高校も同じになってしまうので、どこの高校が保護者や生徒に必要とされているのか見えなくなってしまうと思います。

豊川委員長

手法としては大事なのでしょう。

前田副委員長

関連するのかわかりませんが、先程地元希望者の話が出ましたが、本県のような全県一区での地元希望者とはどういう定義なのでしょう。

D委員

それについては、これから話し合いになると思います。

A委員

色々考えてみましたが、志願者数で何%とすると、例えば1学級40人であれば20人と21人では%で見ると相当な違いがある訳です。1次であろうが2次であろうが制度として認められている訳ですから、最終的には何人入ったのかという事が誤解の無い県民のコンセンサスではないかと思えます。志願者数とすると、受けさせるとか、1人違うと50%を超えるとかは実際問題として良くある事ですから、実際の入学者数が一番分かりやすく誤解を生まないと思えます。あるいは、第1次調査の志願者数の%と実際の入学者数の両方を考慮した考え方もあると思いますが、そうすると、両方満たさないといけないのか、片方を満たせばいいのか、というようになってしまいますので、一番誤解が無いのは何人入学したかという辺りではないでしょうか。

G委員

ある意味では地域の学校の生殺与奪権をどうするかという話です。そのようなかなりシビアな事を決める時に、志願者数等の揺れ動く数字で決めるのでは非常に混乱を招くような気がします。今言ったように、入学者数が定員の何%という事の方がはっきりするのではないかと思います。

前田副委員長

政治的に利用されませんか。第1志望の数を基準とするという事であれば、まず第1志望はそこにするようになったりします。

豊川委員長

色々ありますから、当然想定されるかもしれません。みんな存続できれば一番いいのですが、そうはいかないものですから。

C委員

それでは、やはり定員ですよ。

事務局

毎年生徒の募集人数を決めているのですが、それは必ずそれ程定員割れが起きないような形で組んでいます。それは、県民の税金を使っているので無駄にならないように、行きたい学校を充足して行くという事がありますので。その時に、最終的に入った数で見るという事も確かにあるとは思いますが、それではいつまでもある程度の数の生徒が入ってしまい、必ず学校が残って行くという可能性を心配しています。要するに、近隣の学校に本当は行きたいが、行けないのでこちらに入るといった人が必ず出てきます。我々は将来的にも学級減はして行く訳ですから、行きたくても行けない子ども達は最終的には残っている学校に行きたくなくても行くという場合が出てくると思います。それが県民の思いで、本当に希望しているのであればかまわないとは思いますが。定員に余裕を作って誰でも希望通りに入れるようにしておいて、最終的に募集よりもこんなに入学者が少ないという見方はできるでしょうが、現状では余裕が無い状態です。現に、これから校舎制を導入する学校でも40人であれば定員を満たすだろうという事で校舎制を導入する訳ですから、基準を定員の半分以上とするのであれば未来永劫残るという可能性もあります。それが良い姿なのかどうかは我々には判断できませんが、入学者と限定するとそこが微妙になってくると思います。テクニク的な問題なのかもしれませんが、余裕があって希望通りに入学できるのであればそういう形で表れるのでしょうか、行きたくなくても不本意ながら行く、という形で行っている子どももいるのが現状ですので、それは校舎制の学校だけではありませんが、その所も考えなければいけません。

豊川委員長

50%で厳しいのですか。

事務局

50%とすると40人募集に対して20人ですから、その地域で地元の学校という事で通って来る子ども達で十分クリアできる学校もあるでしょうし、それ以外に不本意な形で10数人が入って来ると考えると、どこの学校という事ではなく一般的な話ですが、入学者数が募集定員の50%をクリアという事になると、平成30年度まで定員40人の半分以下になる学校はほとんど無いというのが我々の試算です。その姿がいいのかは分かりません。

A委員

前期が駄目で後期で入るのが必ずしも不本意という言い方ではなくて、この学校でもいいですよというのが後期なのだと思います。前期が駄目なので渋々受けましたという捉え方ではまずいです。やはり、そういう機会を与えている訳ですから、前期でも後期でもいいというように見てやらなくてはいいけません。実際にはそういう子も確かにいますので、そういう見方は絶対にしない方がいいです。

B 委員

入学者に軸足を置くと永久に無くならないと思います。入学者がある学校を無くする事はできませんので。ですから、教育効果を望めないとか、もう1つの軸足を置かなくては難しいです。入学者に軸足を置くと、ある程度生徒が入っている学校を無くするのかという論戦で来られるとかないませんので、その人数で効果的に教育効果が得られるのかというもう1つの軸足が欲しいです。

豊川委員長

教育効果というのは、何か具体的に挙げられますか。

B 委員

あまりに数値化してしまうと逆に足枷になってしまいますので、そこら辺は文言を工夫して表現しなくてははいけません。

豊川委員長

そもそも1学級規模は無理があるのですか。

B 委員

1月の進路志望状況の第1次調査の結果を見ると、校舎化した学校で一番少ない学校では0.6倍、多い学校では1.15倍ですので、このまま全員が入学するとなると半分は超えている事になります。そうすると、半分を超えているのに統廃合の対象にするのか、という事も言えます。入学者だけに軸足を置くとそうなりますので、もう1つの軸足が欲しいのです。

A 委員

今年は生徒数が減らないのですが、来年以降の数年でびっくりするくらい減りますので、今年あまり当てにならないと見ていました。

B 委員

今年は去年より60名くらい多いですから。

A 委員

ある程度具体的に数字を出さないと、いざという時になかなか納得しません。

G 委員

他の高校へ通学困難な地域の学校の整理という協議事項と、非常に関係がありますね。

豊川委員長

勿論最後はそうなります。小規模校の方向性にも関係あるのですが、かなり意見が出されましたのでまとめられないのかなと思ったのですが。

E 委員

再確認したいのですが、校舎化している学校も平成30年度までは50%を維持できるという事ですか。

事務局

これはあくまでも机上の空論ですが、今までの入学者の状況の過去5年間の平均を取って、平成30年度に中学校の卒業生の何%がどの高校に入るかを推計した時には、2分の1程度であれば入って行くと思います。これは他の学校の学級減等を考慮していませんので、実際に学級減をした時には、そこに行けない生徒が校舎制の学校を目指してますます多くなるかもしれません。逆もあるのかもしれませんが、推計を見ると50%入るかとなると、ほとんどの学校でおそらくクリアすると思われます。

E 委員

数値を設定して校舎化の学校の統廃合をして行こうとしても、それは難しいという事ですか。

事務局

50%という縛りであれば難しいという事です。第2次実施計画は県教育委員会として、行きたい学校に行ってもらおうという事で考えました。先程指摘を受けましたが、行きたい学校に行ってもらうために、今まで本校として残していた学校で本当はそれ程人気が無いと言いますか、次善の策として行っている学校なのであれば、行きたい学校を残すために1学級規模の学校にしましょう、という事でやってきたのが校舎制です。ですから、その流れから本来子ども達が行きたい学校を十分配慮して行くべきだと考えると、校舎制の学校については進路志望状況の第1次調査の希望が無くて入学者が多い学校がほとんどですから、そこをどう捉えるかだと思います。人気投票という事はあるのかもしれませんが、最初から希望していない学校に後から入る、それも最終的な希望だと考えられるのかもしれませんが、そこをどう捉えるかなのです。今までの第2次実施計画の流れからすると、行きたい学校に行かせてあげたいという考えが根本にあります。

豊川委員長

校舎化されている高校は、もう高校教育ができないという前提なのですか。

事務局

なかなか難しいのですが、工夫しながらやって行こうという事です。完璧ではないかもしれませんが、これまでも分校はあった訳ですから全くできないという事ではありません。

#### E 委員

これまでの話し合いで、校舎化された学校については基本的に統廃合して行こうという線でしたよね。それが大前提にあると思いますので、校舎化になった学校について統廃合して行く形の方針を出さなくてはいけないのではと思うのですが、入って来る子ども達の数の事を聞くと、それは無理だという事ですね。

#### 事務局

皆さんの意見を伺うと、基本的に統廃合を積極的に進めるべきという意見のようですが、当初事務局から説明したと思いますが、第2次実施計画の中では基本的に校舎制の学校は残すという事で考えています。将来的に希望する子どもがいなくなった段階では、地域性等を考慮した上で廃校という可能性も無い訳ではありませんが、当初導入した時点では決して統廃合ありきの校舎制ではありません。ですから、きちんと教育課程を組んで、充分ではないまでも高校教育を享受してもらおうという観点から、どういう形になれば統廃合もやむをえないだろうという判断があれば、何かしらの基準を設ける必要があると思います。多くの方々が統廃合はやむをえないという意見に傾いていますが、諮問する段階での基本的な考え方はそうではありません。

#### A 委員

あくまでも残すという事は、地理的、経済的に困難な子ども達に就学機会を与えて行こうとする観点です。勿論1学級ですから無くなる可能性は他の学校より高いかもしれませんが、無くする事が前提ではない、という事ですね。

#### 豊川委員長

それでは何らかの条件を設ける答申は難しいです。緩やかな条件にしますか。あまり厳しいと、今までの方針に反する事になりますから。やはり2年連続で80%とかは厳しいので、50~60%くらいになるのでしょうか。

#### A 委員

現在の子どもの数からすると、後期試験で移動する事によって入学者が定員の半分くらいは行くのだろうと思いますが、あと数年もするとそうはいかないでしょう。それ以上の激減だと思います。

#### 豊川委員長

という事は、今50~60%としても結論は同じ事でしょうか。

A 委員

それ以上の子どもの数が減って行きますから。

事務局

子どもの数が減るにつれて学級減をして行きますから、倍率は変わらない予定です。目に見えて子どもの数が減って学級数が今のままであれば、当然入る子どもは減って行くと思いますが、他の学校を減らして行きますのでその子どもは同じように残って行くと思います。それはそれでいいのかもしれませんが、いつまで残しておくかという時に、先程あった教育的見地もあるでしょうし。

豊川委員長

教育的見地でやるのであれば、はっきりと意見を述べてやるべきです。事務局が言ったようにするのであれば、どうしようもないのではないですか。教育的見地で見ると止めたほうがいいのではないかと思うのですが。むしろ大きい学校の方が教育的効果はある訳ですから。通うのが難しいと言うのであれば仕方が無いとは思いますが。

B 委員

地域から2時間もかかるという学校は別ですが、通える範囲であればこれに対応しないと、結局そういった学校を残すと大規模校を減らさなくてはいけないというジレンマに落ちます。ですから、将来的には校舎制の学校はどこかに吸収するべきだと思います。

豊川委員長

吸収するべきだと書きますか。

B 委員

文言は分かりません。将来的にはそうなるだろうと思いますので、県全体で地域バランス等を考えて、そこで吸収して教育的効果を高めるしかないと思います。ですから、数値がいいのか、あるいは何年間の推移を見て教育的効果が感じられない、というような表現がいいのかは分かりませんが、それをやりやすくするような文言にすればいいと思います。

豊川委員長

文言を作るために高校教育の理念案をお願いしていますが、それが無いと教育改革ができません。

D 委員

この会議では、初回から教育理念や教育の在り方について流れを追って、途中で1学年

2 学級の学校で特殊な事情がある所は最低レベルとして残すという事で話をして来ましたが、今ある校舎制をこのまま全部残すというのは横道に逸れていると思うのです。ですから、ある程度は突っ込んだ形でまとめるしかないと思います。

G 委員

校舎制を考える上で、よその学校に通いやすい学校が校舎制になる場合もあるのですか。

事務局

あります。

G 委員

よその学校に通学が困難な学校が校舎制になる場合もあるのですか。

事務局

あります。

G 委員

それを一緒に考えるとなかなか難しい議論になります。学校再編をする上で統廃合したい校舎制の学校があっても、通学等で難しい所も出てきますので、それを一緒に議論すると分かりにくく個別具体の話にならざるをえません。しかし、基準を設けた時に校舎制が全部残ってしまうと統廃合は進まず、市部に負担がかかるという事になります。そこを整理して議論しないと、奥歯に物が挟まったようで具体的に議論が進まないような気がします。

事務局

先程話したのは、第 2 次実施計画時の校舎制の前提です。私達が諮問した時には、校舎制にする学校が廃校への道を辿るようにお願いしたい、という意味ではありません。皆さんが廃校もありきた、と考えるのは分かりますので、あくまで諮問した時点ではそういう前提ではないという事で、否定するものではありません。ですから、今のような事が実際に起こる可能性もある訳です。

東青地区では平内高校、今別高校、西北地区では深浦高校、五所川原東高校、中南地区では大鰐高校、上北地区では八甲田高校、下北地区では川内高校、大畑高校、三八地区では南郷高校。これらの学校が校舎制になりますし、五所川原東高校は平成 20 年度で募集停止と第 2 時実施計画に入っています。それ以外の学校については、将来このまま残って行く可能性もあるというのが今の実施計画です。ですから、近隣の学校に通える学校も中にはあるし、少し地理的に無理だという学校もあります。

## G委員

そうすると、低いハードルを設定するといつまでも校舎制が残り、その弊害が別の学校へ及ぶという話になります。

## E委員

校舎化された学校については必ず例外という話が出てきますので、例外とされる学校とそうでない学校が同じになると議論のポイントが絞れないのが事実です。地理的条件から残さざるをえない学校は、はっきり住み分けしてしまうのは乱暴でしょうか。その学校はどうなっても残るという事を前提とすると、他の学校がどうなるかは自然と決まってくるのでしょうか。

## 事務局

高校は義務教育ではないという話がありましたし、どういう規模でも残していいのか、という話もありました。そこは相容れない部分だと思いますが、極端に言うと全校で15人しかいない校舎制の学校を高校教育と認識するのか、という事です。少し言い過ぎかもしれませんが。

## 豊川委員長

高校教育ですから。昔みたいに通学できないという事はないと思いますので、そんなに気を遣う事もないと思います。人がいない所で高校教育を受けるよりは、1時間かけて通学しても人がたくさんいる所で多くの友達を作った方が、高校生にとってもいい思い出になるのではないのでしょうか。そう考えますので、思い切って考えた方がいいと思います。現場の意見は尊重したいと思いますが。

## A委員

教育論やクラスサイズからでは、なかなか難しいと思います。やはり、1学年30人くらい入学すると全校では90人くらいにはなるのですから、小・中学校のような義務教育ではありませんが、本当に青森県は小規模化していますので地元出身であろうがなかろうが全校で100人くらい生徒がいれば残す、という感じではないのでしょうか。ただ、あと数年後には今は1学年30人入学している学校でも、おそらく10人以下になるだろうと見えていますので、いつまでも無くならないのではなく、住み分けが出てくると思います。ですから、具体的な数字をあげておかないといけません。いざ学校が無くなるという事は大変な事で、その地域の町が消えて無くなるくらいの衝撃で受け止められるのが実際です。そういう抵抗も経験しています。ですから、100人前後集まれば残すのが普通ではないのでしょうか。ただ、いつまでも残すのではなく、一定の数は必要ですから、半分あるいは6割と決めておきましょう。それで、生徒が来なくなったら仕方が無いと思います。ここでは、ぴしっと決めておかないと実際には説得しにくいと思います。

## 豊川委員長

先生方から妥協案を提言できますか。

## E 委員

校舎化された学校については、具体的なポイントとしては難しいのですが、部活動や経費の面で、高校教育の効果を考えると旨く行かないと思いますので、基本的には統廃合して行く方針にしたいです。今の話では、数値の設定はなかなか難しいようですし、地理的に問題がある学校等の問題もあり、まだ話のポイントが絞れていません。

## D 委員

ある程度は数値化した基準を設けなくてはいけないと思っています。校舎化は40人募集ですか。南郷高校は35人募集のようですが。

## 事務局

40人募集です。南郷高校は例外です。

## D 委員

定員40人に対して入学者数が30人未満で2年連続すると、という形で行けば意外といいと思います。25人では教育効果が少ないという気がしていますので、1学年30人で全校90人であれば、少しは学校らしく見えるのではないかと気持ちが揺れています。ですから、定員を決めるのは卒業生数に対して決めるのですから、入学者数は入学者数で、人気が無いと言うと語弊がありますが、行く気の無い生徒は行かないのではないのでしょうか。

## F 委員

今の意見と同じです。ただ、本来的に校舎化の学校だけではなく、全ての学校についてだと思えます。どう活性化するかという中での校舎化ですから、校舎化の学校についてだけになってしまうとどうしてだという事になります。

## D 委員

この会議では最低2学級というのが基本ラインとしているのに、校舎化の学校だけが特別扱いという論法に入っています。その整合性が取れないので悩んでいます。ですから、ある程度、30人はいないと学級として難しいと思います。40人から35人になった時点でも、随分生徒が少ないと感じました。

## A 委員

平成16年度に出された県立高等学校教育改革第2次実施計画の冊子の最後に方向性があり、教育活動に考慮すると高等学校教育改革推進検討会議から示された望ましい学校規模の確保が一層求められる、と書かれてあります。この解釈の問題だと思えます。また、第2次実施計画の終了後も教育活動の更なる充実に向け相当規模の統廃合を含め適正な学校規模・配置を計画的に進める必要がある、とも書かれています。結局、校舎化になったという事は、順次生徒の希望が無くなって1学級になった訳です。建前として4学級以上を望ましいとしながらも、これからは小さい学校は3学級、2学級、1学級になるかもしれません。それは地域にとっての必要性が無いからそうなっている訳です。ですから、それをまた長い間残す事が本当に地域に迎え入れられるのでしょうか。その段階まで来たのなら、やはり統廃合をしなくてははいけません。私立高校と公立高校の割合がある程度決まっている訳ですから、県全体で見ると、こういう学校の定員を残すという事は大規模校から学級数を減らさなくてははいけない事になります。4～1学級になったという事は、ある程度は地域の理解を得ていると考えていいのではないかと思います。1学年30～25人では全校で75～90人ですが、そういう学校のイメージがあまり浮かびません。1学年が70人くらいであれば分かりますが、文化祭とか、その学校でどういう活動をしているのか目に見えてきません。子ども達にとって、社会に出る時に本当に必要な高校教育を付しているのかという疑問があります。ですから、ある程度は統廃合の対象にどんどんするべきだと個人的には思います。

#### A委員

望ましい学級規模の根拠はどこから出てきたのかと考えると、これは大きい学校が30～40学級規模だったベビーブームの時にこれ以上増えては困るので決めたのであって、今のような生徒が少ない時代ではありません。ですから、果たしてそれが学校教育上望ましいのかというと、我々の経験上から望ましい学校規模としたのであって、実際に生徒にとって、プラスになっているのかは甚だ疑問だと思っています。1学級になったある商業学科が県下一位になる、という事もある訳です。やっている学校では逆に教育効果が上がる事もあるのですから、校舎化になってもやり方によっては切磋琢磨して行ける訳です。ですから、あくまでも校舎化イコール統廃合前提とは考えないで、何とか残して機会を与えて切磋琢磨させる方が将来現実的ではないかと思います。実際問題として、校舎化の学校を残した事が市部の学校を大きく減らす事にはならないと思うのです。やはり、距離的、経済的な問題で通えないのでそこに行くのですから、その事が市部の学校を大きく学級減へ追い込んだ事にはならないでしょう。

#### G委員

最終的な姿として、市部も郡部も聖域は設けないのが基本認識ですよね。大方の意見としては、教育効率を考えると校舎化はできるだけ避けた方がいいのでしょう。校舎化の学校を残して市部の学校の統廃合に踏み込んで行く時に、1学年1学級25～30人の学校

が残って市部の学校が消えるという事態になるでしょう。その時に県民、世論から納得を得られるかを考えなくてはならないと思います。教育の機会均等は大事ですが、それで果たして全体的なバランスが取れるかどうかです。

#### A 委員

逆に、市部の学校を大きく左右する数ではないと思うのです。

#### G 委員

数はそうでもないかもしれませんが、学校の再編をする場合の理念に疑念を抱かれないかと思うのです。強過ぎる言い方かもしれませんが。

#### B 委員

私立高校と公立高校は、実人数ではなく定員枠で分けているはずなので、校舎制の学校に40人の定員枠を残すと、実際に何人入学しようが他の学校を40人減らさなくてはなりません。30人入学したら30人減らすのではありません。

#### C 委員

校舎化する学校が凄く多いと思います。ある県立高校では、70人募集してもその地域からは53人しか入学者がいらないそうです。ですから、校舎化の学校に他の地区から来る事もないでしょうから、校舎化する所はどれくらい高校に入る子どもがいるのか、地元の出生率を加味して、もう少し校舎化は少なくした方がいいと思います。そうしないと、2学級ある学校でも校舎化の危険に怯える事になりますから。その校舎化の学校を潰して、お金を他の学校に配分した方が良い教育が望めるでしょう。距離的な問題等で残す所は残してもいいのですが、できる限り本校に行って充実した高校生活を送って欲しいと思います。

#### 前田副委員長

5回もこの専門委員会をやっているという事でしたが、こういう共通理解は図れていると思っていましたが、今まで確認していなかった事があると気付きました。例えば、校舎制は将来的に統廃合ありきではないという事は、今定着したような気がします。私は、本来的には色々な学校は無くするべきではない、という考えが先にあります。中学校ですが、1学年1学級30人で全校90人くらいの学校や1学級17人の学校でも、子ども達はきちんと活動していましたが、そこは小学校と中学校の併設校でした。だから色々活動できたのだと思います。やはり、教育効果を考えると人数が少なければその分しかできないでしょう。この子達が高校に行った時、町に行った時、あまり肩身の狭い思いをしないように育てるのに悩んだ記憶が戻ってきました。議論の中では、校舎化をみんな残して行く方向ではなかったと思います。特に、地域の中で特徴のある学校は残す事にしてしまうと市

内の普通高校を減らして行く事になりますし、自然に削って行ってしまうと市部だけに高校が残るのでは、という懸念もあります。そういう事もあるので、市部の中でも削る所は削るという原則があるのだと思います。そういう事を考えると、途中で子どもの数が多くなかった時に後からできた高校は、最初はたくさん生徒が入ったようですが、子どもが少なくなると電車で近くの市部の学校へ通うようになりました。その結果、地元の生徒はほんの少力で、逆に市内からの生徒が増えてしまい、そして校舎化になりました。後からできた学校は生徒が増えたからできたので、その逆の流れが今あると捉えるのが自然ではないかと思います。固定はしませんが、市部の学校でも後からできた所はどうなるのでしょうか。また、99%が高校へ行く訳ですから、校舎化されてもここだけは絶対残さなくては高校に行きたい子が行けない所は、どこでもいいから高校を卒業したいという子どもや親の事を考えた時に、バランスをもう一度考え直さなくてはいけないと思いました。どうすべきという事は言えませんが。

#### A 委員

校舎化した学校を全て残さなくてはいけないという意味ではなくて、ある一定の基準、やはり1学年40人とすればその内25~30人は必要なもので、それを満たさなくなった時にはやむをえないでしょう。残念ですが、あとの校舎化した学校は教育効率からすると統廃合になるでしょう。ある一定の、例えば5~6割という形の、1つの基準は作っておかなくてはいけないのではないのでしょうか。それを満たさないのではやむをえないという事で、5人でも10人でも永遠に残るのではなく、25~30人程度が限度だと思います。この辺りで折り合いをつけないと、この話は進まないと思います。

#### 豊川委員長

現にそういう高校がある訳ですから。そういう事を考えると、そういう意見は出ると思います。

これ以上話しても意見が同じになってきていますので、いつまでもそのままではいけませんので条件を考えてみたいと思います。例えば、2年で50%~60%という数値が出されましたが、いかがでしょうか。今回は一応数値を決めておいて次に行きたいと思いません。コンクリートするのではなく、次に考えましょう。一定の数値として、皆さんから色々出されていますので決めて次に進みたいと思います。私としては、5~6割くらいかなという気はします。8割はきついですね。

#### G 委員

校舎化の所だけに基準を設けてそれをクリアすれば残り、これから再編されようとしている普通の高校には基準は無いのです。それでは、校舎化された学校だけが基準を設けて、それをクリアすれば残るという事では不公平感がある、という点はどう整理すればいいのでしょうか。

#### D委員

それは非常に難しい所です。2学級以下の学校は作らないという事を議論しておいて、校舎化をこの割合でやるならば、先々の学校についても適用しないと片手落ちのような気がします。どちらが先なのでしょう。

#### G委員

再編は問答無用でやっておいて、校舎化の学校だけはこの数字をクリアすれば残るといふ事が公平な議論になりますか。

#### 豊川委員長

校舎化する学校は決まっていますが、生徒の数が減って2学級を維持できない学校も出てくるという事ですね。

#### G委員

全体の統廃合をする時に、校舎化の所だけが数字をクリアすれば残るのです。その他の学校を再編する時に、今の所は基準が無い訳です。

#### 豊川委員長

今3～4学級ある学校に、そこまで配慮する状況になっていますか。

#### G委員

そこは無いのだと思います。そうすると、校舎化した学校だけが基準をクリアすると胸を張ってずっと残る事になってしまいます。

#### 豊川委員長

そうはならないでしょう。いずれ支えきれなくなるでしょう。

#### A委員

そうなるでしょう。例えば定員4学級の学校で連続して応募者数が2学級に満たない、という時には自動的に学級減をしますよね。魅力が無いのであれば、学級減をせざるをえないという感覚だと思います。

#### 事務局

G委員は、市部の学校については今まで学級減をしてきましたが、いずれは統合する必要があるのに基準が無く、それなのに校舎制の学校は基準をクリアするとずっと残って行く可能性がある、という事を話しているのですよね。

G委員

それが全体の中で、公平なのか疑問があります。

A委員

それでは、市部の学校を廃校にする場合にどのような条件を作るのか、アイデアがあれば皆さんから出してもらいますか。それはなかなか難しいですが。

豊川委員長

それも決まった訳ではないですから。私案として出ただけで、また別の意見があるかもしれないので。10年の計画ですから、そこまで考慮してやる必要があるのでしょうか。上と下を整理しておけばいいのではと思います。

事務局

ですから、校舎だから無条件で残すという事になると不公平感があるのではないのでしょうか。校舎の中でもこういう理由があるから残す、という県民が納得できる理由があれば違うのでしょうか。校舎化した学校が基準をクリアして残り、2学級の学校が統廃合されるとなると、早目に校舎制になっておけば良かった、という事にもなるのではないのでしょうか。

D委員

例えば、うちは校舎化してくれと逆に陳情された時にどうするかです。

豊川委員長

今日の議題の、その他の小規模学校の方向性に関連すると思います。

A委員

3学級あった学校がストレートに1学級にはならない訳です。段階を踏むでしょうから。その中で、基準が無くても当然に校舎化になってしまうと思うのです。

豊川委員長

それでは、その他の小規模学校の方向性に入りたいと思います。校舎化などの例外もあるので、やはり郡部は減るのでしょうかね。

D委員

それは募集人員の絡みです。

豊川委員長

市部を減らすと、やはりそこに残る可能性はあるのですね。

B 委員

前回の第1専門委員会の記事では、学校を廃止する時の一定の数値的基準を設ける、となっています。これは公になっているので、やはりどこかに数字を使わなくてはなりません。私としてはできるだけ数字は多く使いたくありません。

事務局

そういう意味では、蛇口議長の私案に、適正な学校規模の全体の基準をこう決めてはどうかという事が示されています。それに対する第1専門委員会の修正案という事で意見をいただいていますので、議論していただければと思います。先程のように、4学級が3学級に、3学級が2学級にという図式は出てきません。ただ、この中には校舎制になる学校については書かれていないので、別途議論していただかなくてはなりません。蛇口議長の私案の方向で基本的に進んではどうかというのが検討会議の意見ですので、これに対して第1専門委員会の基本的方向が示されれば、それに沿って進められるのではないのでしょうか。

豊川委員長

資料があると思いますが、蛇口議長の私案の3の(イ)(ロ)辺りで校舎制以外の学校にも対応できるのではないのでしょうか。当面維持するが統廃合を検討しようという、ごく自然な流れですが。という事で、小規模校の方向性はこれで良いのではないのでしょうか。

事務局

(イ)は2学級以上の学校についてですので、校舎制の学校ではないです。

豊川委員長

そうですが、方向としてはこれがすきっとまとまっていると思います。

色々な数字についてはそのままにして、協議事項のに進みたいと思います。これについては、ここで大まかな線が引けるのではないのでしょうか。しばらくは当面維持するとかは出てくるのでしょうか、今までも話題として出ていましたがメインとして話をしていないので、ここで確認した方がいいと思います。実際皆さんから見てどうなのでしょう。

E 委員

この議論は校舎化の学校についてですか。それ以外の学校についても対象ですか。

前田副委員長

校舎化の学校だけではなく、特徴があって残っている学校等についても対象でしょう。

事務局

何をもって交通が困難なのかは良く分かりませんが、校舎化の学校だけではなく、他の学校も対象です。

E 委員

現実に2～3学級を維持している学校を、通学困難として議論するのはポイントが難しいと思います。議論した所でどうなるのでしょうか。あくまでも統廃合の対象として議論しなくてはいけないので、とりあえずそういう学校については対象にしなくてもいいのではないのでしょうか。

A 委員

蛇口議長の私案の方向でいいと思います。地元との密着度が高く2学級以上の学校については当面維持し、できなくなれば校舎化へ移行すればいいと思います。

豊川委員長

それでいいのではないのでしょうか。

A 委員

それしかないのではないのでしょうか。当面は状況を見て、その中で維持が困難であれば仕方がない、という方向です。

豊川委員長

これでいいと思います。次に地区毎の学校配置についてですが、シミュレーションして検証していますが、必要であれば修正案をまとめたいと思います。

事務局

蛇口議長の私案で包含されるものと考えますので、地区毎の学校配置についてはその基準で大方理解いただけるのではないのでしょうか。

A 委員

第1専門委員会では具体的な学校名をあげて話はしないのですよね。

事務局

大前提をいただければ、事務局が実際の統廃合計画を示す事になります。

A 委員

先程の修正案の 1、2、3 で考えていいと思います。

B 委員

何科と何科を統合するという事については、具体的な作業は第 2 専門委員会ですよね。

事務局

それは第 2 専門委員会です。

B 委員

ここでは学級数だけですよね。

事務局

後は、普通科、職業学科、総合学科のバランスについてなのですが、それについては前回に方向性をいただいています。普通科と商業科を統合して 6 学級規模の学校を作ればいいのか、という話になると、どちらの専門委員会でも話題になるとは思います。

B 委員

今ある学校の存続だけを考えると、大きい学校も学級減の対象になってしまいます。例えば、尾上総合高校と黒石商業高校を一緒にして総合学科にし、その中の選択肢に商業の科目を設ければいいのではないのでしょうか。2 つ足して学級数と定員を減じてもいいのですし、そうするとどちらかの学校が空くので、そこに尾上総合高校の定時制、黒石高校の定時制、弘前中央高校の定時制も一緒にしてしまうのは可能です。学級数の増減を考慮するのであれば、そこまで必要なのではないかと思います。それは青森でも、八戸でもできると思います。

A 委員

そういう話も必要ですが、根幹に関わってきます。これはもっと前の段階で話し合う必要があったのかもしれませんが、そこまでは要求していないでしょう。先程の大原則で配置すればいいのではないかと思います。

豊川委員長

定時制の方向性についてはどうですか。話が出ましたが、工業系はどうするとかの話は第 2 専門委員会ですので、必要なら統合して教育しやすいような条件整備をするくらいの表現でいいですかね。

前田副委員長

定時制は便利さだけでなく、定時制の本来の役割と違う形で子ども達が入ってきています。ですから、人数が小さい学校よりも、その中で教師もそれなりに子ども達を頑張らせて行くファイトを持って教育ができるように、ある程度は統合した形での定時制が出てこないかと駄目という思いがあります。

#### B 委員

定時制は存続させるべきだと思いますが、どこかにまとめていいと思います。通信制もまとめていいと思います。

#### A 委員

中南地区は若干整理してもいいと思いますが、あとはバランスが取れている気がします。

#### 事務局

中南地区については定員が162人で、東青地区も同じですが、充足率が中南地区では52.5%、東青地区では76.9%、三八地区では64.4%となっており、非常に低くなっています。

#### 豊川委員長

議題はざっと終わりましたが、やはり主題となっている校舎制の数値についてですが、最終決定ではありませんがある程度は出した方がいいのではないのでしょうか。色々な理由で揺れていますが、基本路線として出した方がいいでしょう。

#### A 委員

出さないとずるずると行ってしまいますから。

#### 豊川委員長

2年で60%という感じではないのでしょうか。皆さんもそれ程意見は変わらないと思いますので、一応それで出しておきます。皆さん、長い経験に基づいての意見ですので、アバウトでも仕方ないと思います。

#### A 委員

それくらいがいいのではないのでしょうか。

#### 豊川委員長

それでは、最終決定ではありませんが、2年間定員の60%を満たさない時は考えるという事を基本路線にしたいと思います。

次は蛇口議長の私案についてですが、むしろ配慮し過ぎていましたので、我々の修正案

を出したいと思います。

事務局

3月の検討会議で、私案に対する報告をしていただければと思います。

F委員

(口)についてですが、2学級の時点で頑張ってもらい、できるだけ校舎化には持って行かないうちに評価し、頑張れなかった学校については統廃合の方向に進むという形がいいのではないのでしょうか。これでは、すぐにまた校舎制がどんどんできるような印象があるので、2学級になる前に努力し、学校の魅力を付けられない場合には統廃合もやむをえないのではないのでしょうか。

豊川委員長

それも大事ですね。

事務局

順番を逆にするのか、校舎化という文字を取ってしまうという事になると思います。

F委員

取ってしまっはまずい事もあるのでしょう。

事務局

議事録を確認して、修正するのであれば委員長と相談して皆さんに報告させていただきたいと思います。

豊川委員長

お願いします。その他に何かありますか。それでは終わらせていただきます。事務局からお願いします。

事務局

3月22日に検討会議を予定していますので、専門委員会として検討内容をどのような形で報告するかについて、全員集まる事はできませんが委員長の案を皆さんへお知らせして、最終的には委員長に発表していただきたいと思います。

豊川委員長

お願いします。

事務局

それでは、そういう形で進めさせていただきたいと思います。

司会

熱心な議論ありがとうございました。次回の第1専門委員会は年度を超えまして、5月に開催を予定しています。詳しい開催時期につきましては、皆さんにお手紙を差し上げて調整したいと思います。本日は大変ありがとうございました。